

論文のタイプ	原著
Author	Iribarren, C, Tekawa, IS, Sidney, S, et al.
Title	Effect of cigar smoking on the risk of cardiovascular disease, chronic obstructive pulmonary disease, and cancer in men.
和訳タイトル	男性における冠動脈疾患、COPD、癌に及ぼす葉巻の危険性
Journal	N Eng J Med
巻	340
号	23
ページ	1773-1780
年	1999
キーワード	cigar smoking, cardiovascular disease, COPD, cancer 葉巻、冠動脈疾患、COPD、癌
読んだ人	宮武佳子
読んだ期日	2009. 2. 28
重要度 (アカデミック)	3
重要度 (啓蒙的)	3
抄録	<p>米国における葉巻の販売量は過去 6 年間で増加している。紙巻タバコと異なり葉巻と冠動脈疾患との関連の報告は多くない。そこで 1964 年から 1973 年に Kaiser Permanente health plan に登録した 30 歳から 85 歳までの男性のうち、紙巻タバコを吸ったことがなく、きせるも吸わない 17774 名 (葉巻を吸う 1546 名と吸わない 16228 名) を 1971 年から 1995 年末までの冠動脈疾患での入院または死亡、もしくは 1996 年末までの癌の診断まで追跡するコホート研究を行なった。多変量解析の結果、葉巻は非喫煙者に比べ冠動脈疾患の相対リスクが 1.27 (95%信頼区間 CI 1.12-1.45 <math>p &lt; 0.001</math>)、COPD 1.45 (95%CI 1.10-1.91 <math>p = 0.008</math>)、上部消化管の癌 2.02 (95%CI 1.01-4.06)、肺癌 2.14 (95%CI 1.12-4.11) であり、量反応効果が認められた。口腔癌と上部消化管癌のリスクに関しては、葉巻とアルコールの共働性が認められた。葉巻は他のリスクとは独立して、冠動脈疾患、COPD、口腔および上部消化管癌および肺がんのリスクを増加させる。</p>

論文のタイプ	原著
Author	Jacobs, EJ, Thun, MJ, Apicella, LF.
Title	Cigar smoking and death from coronary heart disease in a prospective study of US men.
和訳タイトル	葉巻と冠動脈疾患死亡の関係。アメリカ男性における前向き研究。
Journal	Arch Intern Med
巻	159
号	20
ページ	2413-2418
年	1999
キーワード	cigar smoking, coronary heart disease, early death 葉巻、冠動脈疾患、早期死亡
読んだ人	宮武佳子
読んだ期日	2009. 3. 2
重要度 (アカデミック)	4
重要度 (啓蒙的)	3
抄録	<p>葉巻は1993年以降急速に流布している。紙巻たばここと異なり、葉巻と冠動脈疾患死亡の関係は明らかでない。そこで、30歳以上の男性121278名を対象にした1982年から1991年までの9年間の前向きコホート研究で死亡率を調査。1982年の調査で紙巻たばこやきせるを吸ったことがなく、心臓病や糖尿病の診断をされていない人を対象とした。追跡期間中の冠動脈疾患による死亡数が2508、30歳から74歳までの死亡率が、年齢、教育、高血圧、BMI、運動量、アルコール消費量、受動喫煙暴露、ビタミンC使用を補正した相対危険度は葉巻を吸う人で高く1.30(95%CI 1.05-1.62)、75歳以上では0.93と高くなかった。また以前に葉巻を吸う人の相対危険度はそれぞれ1.03、1.10と高くなかった。葉巻が75歳未満の冠動脈疾患死亡を増加することを示唆している。</p>

論文のタイプ	総説
Author	Gupta, R, Gurm, H, Bartholomew, JR.
Title	Smokeless tobacco and cardiovascular risk.
和訳タイトル	スモークレスたばこと心血管病リスク
Journal	Arch Intern Med
巻	164
号	17
ページ	1845-1849
年	2004
キーワード	smokeless tobacco, cardiovascular risk スモークレスたばこ、心血管病リスク
読んだ人	宮武佳子
読んだ期日	2009. 3. 2
重要度 (アカデミック)	3
重要度 (啓蒙的)	4
抄録	<p>スモークレスたばこはかみたばこまたはかぎたばこの形をしており、紙巻たばこが減少しているのとは逆にその消費が増えてきている。1986年の調査では6.5%の男性、0.7%の女性が定期的なスモークレスたばこ使用者であり、高校生の約43%、白人野球選手の55%が使用者との報告がある。1966年から2002年までのデータよりスモークレスたばこと心血管病に関する論文を検討した。スモークレスたばこのニコチン血中レベルは紙たばこよりも高値を示した。多くの試験で、紙巻タバコの方がスモークレスたばこよりも心血管病のリスクや死亡率が高かった。スモークレスたばこ脂質や血圧、フィブリノーゲン、インスリン抵抗性に影響を及ぼすが、多くの研究は紙巻タバコよりは心血管リスクは低く、しかし、たばこを吸わない人よりは高い。高校生のスモークレスたばこはアルコール消費の増加やマリファナ使用、将来の喫煙へのステップとなる。また口腔癌（非喫煙者の50倍の相対リスク）や口腔内白板症、歯周病を増加させる。ニコチン置換療法、bupropion、認知行動療法がスモークレスたばこを中止するのに役立つだろう。</p>

論文のタイプ	原著
Author	Bolinder, G, Alfredsson, L, Englund, A et al.
Title	Smokeless tobacco use and increased cardiovascular mortality among Swedish construction workers.
和訳タイトル	スモークレスたばこと心血管病死亡の関係 スウェーデン建築作業員の調査
Journal	Am J Public Health
巻	84
号	3
ページ	399-404
年	1994
キーワード	smokeless tobacco, cardiovascular mortality スモークレスたばこ、心血管病死亡
読んだ人	宮武佳子
読んだ期日	2009. 3. 4
重要度 (アカデミック)	3
重要度 (啓蒙的)	3
抄録	紙巻たばこと同様に血中ニコチン濃度を増加させるスモークレスたばこの心血管リスクはあまり知られていない。健康診断を受けたスウェーデンの建築作業員男性 (n = 135,036) の 1974 年から 1985 年の 12 年間の死亡率を調査した。スモークレスたばこのみの使用者 6297 (4.7%)、1 日喫煙数が 15 本未満 14,983 人 (11.1%)、一日 15 本以上 13,518 人 (10%)、元喫煙者 17,437 人 (12.9%)、32,546 人のたばこを全く使用したことのない非喫煙者を対象とした。葉巻、パイプやさまざまなタバコを使う人 50,255 は除外した。死因では心血管病が最も頻度が高く、年齢を補正した心血管病による死亡の相対危険度はスモークレスタバコで 1.4、15 本以上の喫煙者で 1.9。35 歳から 54 歳までの若い人は 55 歳から 65 歳に比べてその相対危険度は高く、2.1 対 3.2 であった。BMI、血圧、心臓の症状の既往を補正してもその結果は変わらなかった。スモークレスタバコではガンによる死亡率は上がらなかった。スモークレスたばこはかみ巻くタバコよりもリスクは低い、そのリスクはあり、予防する根拠となる。

論文のタイプ	総説
Author	Julia A. Critchley, Simon Capewell
Title	Mortality Risk Reduction Associated With Smoking Cessation in Patients With Coronary Heart Disease
和訳タイトル	冠動脈疾患患者における禁煙による死亡率の低下
Journal	American Medical Association
巻	290
号	1
ページ	86-97
年	2003
キーワード	Smoking Cessation(禁煙), Mortality(死亡率), Coronary Heart Disease(冠動脈疾患)
読んだ人	中田 淳
読んだ期日	2/20/2009
重要度 (アカデミック)	4
重要度 (啓蒙的)	3
抄録	<p>[目的]冠動脈疾患(CHD)患者の禁煙による死亡率リスク軽減を評価する系統的レビューを行う。</p> <p>[方法]2003年4月時点で9つの電子データベースに登録されている665例の刊行物、20例の大規模研究を対象とし、2年以上の追跡調査が行われているCHD発症時喫煙者の全死亡率について検討を行った。</p> <p>[結果]CHD発症時喫煙者12603名の中で、5659名がその後禁煙し、6944名が喫煙を継続していた。禁煙者群は継続喫煙群と比し、36%の死亡率低下を認めた。個々の症例で年齢・性別・CHD内容・追跡期間は異なっていたが、患者背景を均一化した6例の研究における統計処理においても、同様の結果であった(相対危険度0.71)。</p> <p>[結論]大規模研究を含む系統的レビュー検討の結果、CHD患者では、禁煙により死亡率リスクの有意な減少を認めた。</p>

論文のタイプ	原著
Author	Thomas D. Rea, Susan R. Heckbert, Robert C. Kaplan
Title	Smoking Status and Risk for Recurrent Coronary Events after Myocardial Infarction
和訳タイトル	心筋梗塞後の冠動脈疾患再発のリスクと喫煙の関係
Journal	Annals of Internal Medicine
巻	137
号	6
ページ	494-500
年	2002
キーワード	Smoking(喫煙), Recurrent Coronary Event(冠動脈疾患再発), Myocardial Infarction(心筋梗塞)
読んだ人	中田 淳
読んだ期日	2/20/2009
重要度 (アカデミック)	3
重要度 (啓蒙的)	3
抄録	<p>[目的]心筋梗塞発症後の冠動脈疾患発症のリスクと喫煙の関係を明らかにする。</p> <p>[方法]初回心筋梗塞発症後の2619名の患者の冠動脈疾患再発の相対危険度(RR)を非喫煙者、元喫煙者、現役喫煙者で測定する。</p> <p>[結果]梗塞発症時点で、33.6%が非喫煙者、35.5%が喫煙経験者、30.9%が現喫煙者であったが、梗塞発症後、現喫煙者であった808人中、449人が禁煙した。</p> <p>非喫煙者群と比し、冠動脈疾患再発の多変数RRは喫煙経験者では1.17、現喫煙者では1.51であった。</p> <p>禁煙者群においては、禁煙期間0~6カ月のRRは1.62、6~18カ月は1.60、18~36カ月は1.48、36カ月以上では、1.02と禁煙期間と相関しRR低下を認めた。</p> <p>[結論]心筋梗塞発症後の喫煙により、再発性冠動脈疾患発症リスクの増加を認めた、心筋梗塞発症後の禁煙により、禁煙後3年でその発症リスクは非喫煙者と同等まで減少を認めた。</p>

論文のタイプ	総説
Author	Glantz SA, Parmley WW.
Title	Passive smoking and heart disease
和訳タイトル	受動喫煙と心臓病
Journal	JAMA
巻	273
号	13
ページ	1047-1053
年	1995
キーワード	Carbon monoxide, nicotine, polycyclic aromatic hydrocarbons, cardiac event. 一酸化炭素、ニコチン、多環芳香炭化水素、心事故
読んだ人	佐藤直樹
読んだ期日	3/14/2009
重要度 (アカデミック)	1・2・3・ <u>4</u> ・5 (5点がとても重要)
重要度 (啓蒙的)	1・2・3・4・ <u>5</u> (5点がとても重要)
抄録	受動喫煙は血液の心臓への酸素運搬能を低下させ、心筋の酸素を利用しアデノシン三リン酸を生成する能力を損なわせる。これによって、間接的に運動耐容能を低下させ、血小板機能を亢進し動脈硬化病変を進行させる。喫煙の間接作用は喫煙のひとつの因子によって引き起こされるのではなく、多くの要因、すなわち、一酸化炭素、ニコチン、多環芳香炭化水素他、十分特定されていない因子によるものである。日常喫煙にさらされることは致死のおよび非致死的心事故を増加させる因子となる。

論文のタイプ	原著
Author	Steenland K, Thun M, Lally C, Heath C.
Title	Environmental tobacco smoke and coronary heart disease in the American cancer society CPS-II cohort
和訳タイトル	米国癌協会による癌予防研究 II における環境喫煙と冠動脈疾患
Journal	Circulation
巻	94
号	4
ページ	622-628
年	1996
キーワード	Smoking, coronary disease, mortality 喫煙、冠疾患、死亡率
読んだ人	佐藤直樹
読んだ期日	3/13/2009
重要度 (アカデミック)	1・2・ <u>3</u> ・4・5 (5点がとても重要)
重要度 (啓蒙的)	1・2・ <u>3</u> ・4・5 (5点がとても重要)
抄録	<p>【背景・目的】 14ある疫学研究のうち13が環境喫煙(ETS)によって非喫煙者の冠動脈リスクが20%程度高まることを示しているが、まだ十分に結論づけられていない。そこで、これを愛きらかにするために、現時点で最大規模の前向き研究を行った。</p> <p>【対象・方法】 1982年に米国癌協会の癌予防研究 II に登録された女性 353,180例、男性 126,500例で1989年まで経過観察した。このうち、309599組の夫婦と自己申告あるいは配偶者によるたばこ暴露例 135237例でも解析した。【結果】 背景因子により補正した結果、男性非喫煙者で非喫煙者の妻をもつ場合に比して、喫煙者の妻をもつ場合、冠動脈疾患による死亡は22%高かった。女性の場合や元喫煙者では有意でなかった。</p> <p>自己あるいは配偶者による暴露申告例で分析すると、男性で1.23(1.03-1.47)、女性で1.19(0.97-1.45)の割合比であった。</p> <p>【結語】 ETSによる冠動脈疾患死亡リスクは他の報告同様に20%ほど高くなることが示されたが、他の交絡因子が関与している可能性はある。</p>



論文のタイプ	総説
Author	Wells AJ
Title	Heart disease from passive smoking in the workplace
和訳タイトル	職場における受動喫煙による心臓病
Journal	J Am Coll Cardiol
巻	31
号	1
ページ	1-9
年	1998
キーワード	Environmental tobacco smoke (ETS), home-based passive exposure 環境喫煙、家庭での受動喫煙
読んだ人	佐藤直樹
読んだ期日	3/14/2009
重要度 (アカデミック)	1・2・ <u>3</u> ・4・5 (5点がとても重要)
重要度 (啓蒙的)	1・2・ <u>3</u> ・4・5 (5点がとても重要)
抄録	<p>【背景・目的】環境喫煙(ETS)による受動喫煙についての報告はあるが、職場における受動喫煙の心臓病に関する疫学研究の総説はない。そこで、本総説ではそれについてメタ分析を行った。また、家庭における受動喫煙と心臓病に関する分析をアップデートした。【対象・方法】職場での暴露に関するデータを含む8研究の1699例のデータによりオッズ比と相対危険度を検討した。また、家庭における受動喫煙と心臓病との関係も評価した。【結果】それぞれの研究における心臓病に関する相対危険度は、上位3研究をまとめたものは1.50[95%信頼区間1.12-2.01]であったが、すべて加えると1.18[95%信頼区間1.04-1.34]であった。家庭における暴露については冠動脈疾患罹患率はオッズ比1.49[95%信頼区間1.29-1.72]で1994年の分析結果(1.42)より上昇した。【結語】職場における受動喫煙による心臓病に関する相対危険度は家庭におけるものとほぼ同等であった。</p>

論文のタイプ	原著
Author	Kawachi I, Colditz GA, Speizer FE, Manson JE, Stampfer MJ, Willett WC, Hennekens CH.
Title	A prospective study of passive smoking and coronary heart disease
和訳タイトル	受動喫煙と冠動脈疾患に関する前向き試験
Journal	Circulation
巻	95
号	10
ページ	2374-2379
年	1997
キーワード	Smoking, coronary disease, women 喫煙、冠疾患、女性
読んだ人	佐藤直樹
読んだ期日	3/7/2009
重要度 (アカデミック)	1・2・3・ <u>4</u> ・5 (5点がとても重要)
重要度 (啓蒙的)	1・2・3・ <u>4</u> ・5 (5点がとても重要)
抄録	<p>【背景・目的】受動喫煙と心臓病に関する疫学研究はいくつかあるが、職場での受動喫煙に関する研究は少なく、また、すべての交絡因子を調整することはできない。そこで、前向き研究を行った。【対象・方法】本研究は、米国女性看護師の前向きコホート研究の一貫として行った。家庭および職場での受動喫煙だけでなく、喫煙者との同居年数に関しても評価した。【結果】1982年現在、36-61歳までの32046例で非喫煙者かつ冠動脈疾患、脳卒中、癌を有さない者を対象とした。10年間の経過観察において、152例が冠動脈疾患を発症した。受動喫煙のない女性に比して、総冠動脈疾患の相対危険度は、他の危険因子で補正後、家庭あるいは職場で暴露されることがある者の場合1.58[95%信頼区間0.93-2.68]で、常時暴露されている者では、1.91[95%信頼区間1.11-3.28]であった。喫煙者との同居期間と冠動脈疾患との関連は認めなかった。【結語】家庭や職場での常時受動喫煙は非喫煙女性において冠動脈疾患のリスクを増大させる。</p>

論文のタイプ	総説
Author	Law MR, Morris JK, Wald NJ.
Title	Environmental tobacco smoke exposure and ischaemic heart disease: an evaluation of the evidence
和訳タイトル	環境喫煙暴露と虚血性心疾患：エビデンスの評価
Journal	BMJ
巻	315
号	
ページ	973-980
年	1997
キーワード	Smoker, non-smoker, risk 喫煙、非喫煙、リスク
読んだ人	佐藤直樹
読んだ期日	3/15/2009
重要度 (アカデミック)	1・2・3・ <u>4</u> ・5 (5点がとても重要)
重要度 (啓蒙的)	1・2・ <u>3</u> ・4・5 (5点がとても重要)
抄録	<p>【背景・目的】受動喫煙による虚血性心疾患のリスクは約30%高まるとの報告は、65歳の喫煙者のリスク上昇が80%であることを考えると、ほんの1%ほどの煙にさらされることを考えるとリスクの高さが信じがたい。そこで、メタ分析を行った。【方法】妥当な19研究によるメタ分析を行った。【結果】環境喫煙に関連した虚血性心疾患の相対危険度は、65歳で1.30[95%信頼区間1.22-1.38]であった。同年齢で、一日1本の喫煙の相対危険度は1.39[95%信頼区間1.18-1.64]、一方、20本/日では、1.78[95%信頼区間、1.31-2.44]であった。喫煙者と同居している非喫煙者の食事による虚血性心疾患リスク上昇は6%であることより、環境喫煙による直接的なリスク上昇は23% (14-33%)であった。その機序は実験報告によると血小板凝集能が考えられている。【結語】他人のタバコの煙を吸うことは虚血性心疾患の重要かつ回避しうるリスクであり、そのリスク上昇度は25%である。</p>

論文のタイプ	総説
Author	He, J, Vupputuri, S, Allen, K,
Title	Passive smoking and the risk of coronary heart disease--a meta-analysis of epidemiologic studies
和訳タイトル	受動喫煙と冠動脈疾患のリスク -疫学調査のメタアナリシス-
Journal	N Engl J Med
巻	340
号	12
ページ	920-926
年	1999
キーワード	passive smoking, coronary heart disease 受動喫煙、冠動脈疾患
読んだ人	宮武佳子
読んだ期日	2009. 2. 26
重要度 (アカデミック)	5
重要度 (啓蒙的)	3
抄録	<p>受動喫煙の冠動脈疾患に及ぼす影響は議論が分かれる。18 の疫学調査 (10 のコホート研究と 8 の患者対照研究) の結果、非喫煙者が受動喫煙により、冠動脈疾患に罹患する相対リスクは、受動喫煙のない非喫煙者と比較して 1.25 (95%信頼区間 1.17-1.32)。18 研究の全てが 1 を越したが、有意差を認めたのは 7 研究にすぎなかった。受動喫煙による冠動脈疾患の相対リスクはコホート研究で 1.21 (95%CI 1.14-1.30)、ケースコントロール研究で 1.51 (95%CI 1.26-1.81)、男性では 1.22 (95%CI 1.10-1.35)、女性では 1.24 (95%CI 1.15-1.34)、家庭での喫煙暴露が 1.17 (95%CI 1.11-1.24)、職場では 1.11 (95%CI 1.00-1.23)。量依存性の関係が明らかで、相対リスクは一日 1 本から 19 本までの暴露では 1.23 であるのに対し、一日 20 本以上の暴露では 1.31 であった (P=0.006)。受動喫煙により冠動脈疾患の発症リスクはわずかに増加する。喫煙率が高い状況においては、冠動脈疾患に関して受動喫煙の影響は重要かもしれない。</p>

論文のタイプ	原著
Author	Howard, G, Wagenknecht, LE, Burke, GL, et al.
Title	Cigarette smoking and progression of atherosclerosis. The Atherosclerosis Risk in Communities (ARIC) Study.
和訳タイトル	喫煙と動脈硬化の進行。ARIC研究
Journal	JAMA
巻	279
号	2
ページ	119-124
年	1998
キーワード	smoking, atherosclerosis 喫煙、動脈硬化
読んだ人	宮武佳子
読んだ期日	2009. 3. 5
重要度 (アカデミック)	4
重要度 (啓蒙的)	4
抄録	<p>喫煙と動脈硬化の進行、特に環境たばこ煙 (ETS) の大規模調査は過去にない。米国の 45 歳から 64 歳、10914 人のコホート調査で初回と 3 年後の頸動脈の内中膜複合体厚 (IMT) を測定。1 週間に 1 時間以上喫煙者と近接した場合 ETS 暴露とし、喫煙者、元喫煙者の ETS 有無、非喫煙者の ETS 有無に分類。統計モデルでは、年齢、人種、性別、初回の IMT で補正し分類毎に評価。冠動脈リスクモデルはさらに高血圧、LDL コレステロール、冠動脈疾患、糖尿病で補正。ライフスタイルモデルはさらに脂肪摂取量、学歴、身体活動量、アルコール量、BMI で補正。タバコ煙は動脈硬化を進展させた。現喫煙者は非喫煙者より IMT 厚が 50%増加 (43.0 対 28.7 <math>\mu</math>m)、過去の喫煙は 25%増加 (35.8 対 28.7 <math>\mu</math>m)。ETS に暴露されると 20%増加 (35.2 対 29.3 <math>\mu</math>m)。喫煙の分類別で糖尿病 (P=0.004)、高血圧 (P=0.04)、心疾患合併 (P=0.04) 増加。本数年数の多いほど独立した進行因子 (P&lt;.001)、これを補正すると現喫煙と元喫煙で差はなく喫煙の影響が積算的であり、不可逆性かもしれない。ETS の元喫煙者と非喫煙の間ではライフスタイルモデルで有意差なし (P=0.11)。</p>

論文のタイプ	総説
Author	Craig, WY, Palomaki, GE, Haddow, JE.
Title	Cigarette smoking and serum lipid and lipoprotein concentrations: an analysis of published data.
和訳タイトル	喫煙と血中脂質とリポ蛋白：発表論文の分析
Journal	BMJ
巻	298
号	6676
ページ	784-788
年	1989
キーワード	smoking, lipid, lipoprotein 喫煙、脂質、リポ蛋白
読んだ人	宮武佳子
読んだ期日	2009. 3. 5
重要度 (アカデミック)	4
重要度 (啓蒙的)	3
抄録	<p>54 の論文から成人における喫煙と血中脂質とリポ蛋白の関係を調査。喫煙者は非喫煙者に比し血中コレステロール (3.0%), 中性脂肪 (9.1%), VLDL コレステロール (10.4%), LDL コレステロール (1.7%) が上昇し、HDL コレステロール(-5.7%)、アポ蛋白 AI (-4.2%)が減少 (全て <math>p &lt; 0.001</math>)。これらは非喫煙者、少量、中等量、多量の喫煙者間で、明らかな量反応効果を認め、コレステロール (各々0, 1.8, 4.3, 4.5%), 中性脂肪 (0, 10.7, 11.5, 18.0%), VLDL コレステロール(0, 7.2, 44.4, 39.0%), LDL コレステロール(0, -1.1, 1.4, 11.0%), HDL コレステロール(0, -4.6, -6.3, -8.9%), アポ蛋白 AI (非喫煙 0, 少量-3.7, 多量-5.7%)。喫煙と血中脂質、リポ蛋白濃度の間に量反応効果が見られたことは喫煙による生理学的変化や食事の変化が直接的な原因とする新たな証拠かもしれない。前向き研究では、冠動脈疾患の過剰リスクはコレステロールだった。喫煙者の冠動脈疾患死亡の過剰リスクが 70%、1%の血中コレステロール上昇が 2%の冠動脈疾患のリスクとする論文とあわせ、喫煙者のコレステロール上昇による過剰リスクは 9%と見積もられる。喫煙量とコレステロールの間に量反応効果が見られるので、冠動脈疾患リスクも少量と多量の喫煙者では段階的変化があると推察される。</p>

論文のタイプ	原著
Author	Waters, D, Lesperance, J, Gladstone, P, et al
Title	Effects of cigarette smoking on the angiographic evolution of coronary atherosclerosis. A Canadian Coronary Atherosclerosis Intervention Trial (CCAIT) Substudy.
和訳タイトル	喫煙による冠動脈硬化の影響。冠動脈造影による評価
Journal	Circulation
巻	94
号	4
ページ	614-621
年	1996
キーワード	atherosclerosis, smoking, coronary disease, cholesterol 動脈硬化、喫煙、冠動脈疾患, コレステロール
読んだ人	宮武佳子
読んだ期日	2009. 2. 24
重要度 (アカデミック)	3
重要度 (啓蒙的)	3
抄録	<p>喫煙による冠動脈病変の経時的変化を冠動脈造影で評価。血中総コレステロール値 220 から 300mg/dl の 90 名喫煙者と 241 名非または元喫煙者 (喫煙者 4.4 歳若い、<math>p &lt; .001</math>) を対象に lovastatin の二重盲検比較対照試験。実薬群は LDL コレステロール 29%減少、プラセボは 2%未満の変化。72 名の喫煙者 (557 病変) および 227 名の非喫煙者 (1752 病変) の冠動脈造影を 2 年後に施行、冠動脈の最小径は試験開始時喫煙の有無で有意差なし、2 年後プラセボ喫煙者 <math>-0.16\text{mm}</math>、プラセボ非喫煙者 <math>-0.07\text{mm}</math> (<math>p &lt; .001</math>)。実薬喫煙者はプラセボに比し悪化しなかった (<math>p = .024</math>)。一つ以上の冠動脈病変の進展は実薬喫煙者 34 例中 16 例 47%、プラセボ喫煙者 38 例中 28 例 74% (<math>p &lt; .001</math>)。新規の冠動脈病変は、プラセボ喫煙者 38 例中 21 例、プラセボ非喫煙者 115 例中 28 例 (55% 対 24%, <math>p &lt; .001</math>)、一方実薬喫煙者 34 例中 5 例、プラセボ喫煙者 38 例中 21 例 (15% 対 55% <math>p &lt; .001</math>)、実薬喫煙者で新規病変例は少なかった。喫煙は冠動脈病変の悪化および新規病変をきたし、lovastatin は喫煙者における冠動脈病変の進行を遅くし、新規の病変を予防する。</p>

論文のタイプ	原著
Author	Miller, ER, Appel, LJ, Jiang, L, et al.
Title	Association between cigarette smoking and lipid peroxidation in a controlled feeding study.
和訳タイトル	喫煙と過酸化脂質の関係。食事制限下での研究。
Journal	Circulation
巻	96
号	4
ページ	1097-1101
年	1997
キーワード	smoking, atherosclerosis, lipids, antioxidants, free radicals 喫煙、動脈硬化、脂質、抗酸化物質、フリーラジカル
読んだ人	宮武佳子
読んだ期日	2009・2・25
重要度 (アカデミック)	4
重要度 (啓蒙的)	3
抄録	<p>たばこに含まれるフリーラジカルが脂質に障害を与え、とくに酸化 LDL が動脈硬化を促進させると考えられているが、過酸化脂質の測定によるエビデンスは少なく、一致した結果は得られていない。その原因として喫煙者と非喫煙者の食事内容が異なること、とくに喫煙者では抗酸化物質の摂取が少なく血中濃度も低いことが関連していると考えられる。そこで、3 週間同じ食事を摂取した 123 名の成人 (107 名の非喫煙者と 14 名の喫煙者) を対象とし、過酸化脂質を反映する呼気中エタン、チオバルビツール酸反応物質 TBARS を測定。年齢、性別、BMI, LDL コレステロール値、oxygen radical absorbing capacity 活性酸素吸収能は喫煙者も非喫煙者も同等であったが、呼気中エタンは喫煙者に有意に高く (8.88 versus 1.71 pmol/L; <math>p &lt; 0.001</math>)、TBARS も喫煙者に有意に高かった (24.0 versus 20.7 <math>\mu\text{mol/mL}</math>; <math>p = 0.008</math>)。喫煙者は過酸化脂質の産生が高率であり、この結果は喫煙の動脈硬化の影響の一部はフリーラジカルによる脂質への障害が関与することを支持するものである。</p>



論文のタイプ	その他 view point
Author	Reaven, G, Tsao, PS.
Title	Insulin resistance and compensatory hyperinsulinemia: the key player between cigarette smoking and cardiovascular disease?
和訳タイトル	インスリン抵抗性と代償的高インスリン血症 インスリンが喫煙と冠動脈疾患の鍵か？
Journal	J Am Coll Cardiol
巻	41
号	6
ページ	1044-1047
年	2003
キーワード	smoking, insulin resistance, cardiovascular disease 喫煙、インスリン抵抗性、心血管病
読んだ人	宮武佳子
読んだ期日	2009. 2. 28
重要度 (アカデミック)	4
重要度 (啓蒙的)	4
抄録	<p>喫煙は動脈硬化や心血管病の重大な危険因子であり、心血管病の重症度や致死率とその本数は量反応関係にある。高インスリン血症、脂質異常症、血管内皮機能障害はインスリン抵抗性の患者にみられる所見であり冠動脈疾患のリスクでもある。喫煙者は非喫煙者に比べ、相対的にインスリン抵抗性を有し、高インスリン血症、脂質異常症を示す傾向があり、内皮細胞障害もきたしやすい。喫煙者では脂質異常や内皮機能障害が認められ心血管病と喫煙の関係が従来から説明されてきたが、最近の疫学調査では、インスリン抵抗性/高インスリン血症を伴う脂質異常の喫煙者において血管病リスクが非常に高いことを示している。禁煙で体重が増えてもインスリン抵抗性は改善する。禁煙が最良の方法であるが、禁煙ができないインスリン抵抗性を示す喫煙者においては、肥満の解消や運動、食事などのライフスタイルの改善、薬剤も考慮できる。</p>

論文のタイプ	原著
Author	Newby, DE, Wright, RA, Labinjoh, C, et al.
Title	Endothelial dysfunction, impaired endogenous fibrinolysis, and cigarette smoking. A mechanism for arterial thrombosis and myocardial infarction.
和訳タイトル	内皮機能障害、内因性線溶能と喫煙の関係。 動脈血栓と心筋梗塞の機序。
Journal	Circulation
巻	99
号	11
ページ	1411-1415
年	1999
キーワード	Plasminogen activators, endothelium, endothelium-derived factors, blood flow プラスミノゲン賦活物質、内皮細胞、内皮細胞由来因子、血流
読んだ人	宮武佳子
読んだ期日	2009. 3. 5
重要度 (アカデミック)	4
重要度 (啓蒙的)	3
抄録	血管内皮細胞からの組織性プラスミノゲンアクチベータ tPA の放出が内因性線溶能の賦活に必要である。喫煙は動脈血栓や心筋梗塞の危険因子として知られているが、内皮機能障害がその原因と考えられている。12名ずつの喫煙者と非喫煙者の上腕動脈にサブスタンス P (2 to 8 pmol/min) を注入、量依存性に血流量は増加、tPA 抗原量および活性は増加 (P<0.001) し、PAI-1 放出には影響しなかった。非喫煙者に比し、喫煙者において血流量の増加 (P=0.03)、tPA 抗原量の増加 (P=0.04)、活性の増加 (P<0.001) が少なく、抗原及び活性の放出曲線の面積 (総量) は喫煙者において各々51%、53%減少した。喫煙が急性の線溶能の障害による内皮機能障害により動脈血栓のリスクを高める可能性がある。

論文のタイプ	原著
Author	Fusegawa, Y, Goto, S, Handa, S, et al.
Title	Platelet spontaneous aggregation in platelet-rich plasma is increased in habitual smokers.
和訳タイトル	習慣喫煙者における血小板多血漿負荷による血小板自然凝集の亢進
Journal	Thrombosis Research
巻	93
号	6
ページ	271-278
年	1999
キーワード	platelet spontaneous aggregation, habitual smoker, fibrinogen, Von Willebrand factor 血小板自然凝集、習慣喫煙、フィブリノーゲン、Von Willebrand 因子
読んだ人	宮武佳子
読んだ期日	2009. 2. 28
重要度 (アカデミック)	3
重要度 (啓蒙的)	3
抄録	<p>血小板凝集と喫煙の研究結果は一致していない。新たに開発されたレーザー光を用いた血小板微小凝集塊の光散乱の強度を測定する血小板凝集能検査を用い、健康男性 54 名の非喫煙者と 51 名の習慣喫煙者を対象に血小板凝集能を調べた。喫煙者は 10 時間の禁煙後の血液を採取。ADP 1 <math>\mu</math>M 及び 5 <math>\mu</math>M の血小板凝集に両群に有意差はなかったが、血漿中のフィブリノーゲンは喫煙者で 307mg/dl と非喫煙者 273 mg/dl よりも有意に高く (<math>p &lt; 0.01</math>)、血小板自然微小凝集数は多かった (<math>44 \pm 43</math> 対 <math>20 \pm 28 \times 10^3</math> <math>p &lt; 0.001</math>)。血小板微小凝集数は血漿 vWF 抗原値とフィブリーゲン値と相関した (<math>r = 0.2654</math>, <math>p &lt; 0.01</math>, <math>r = 0.2834</math>, <math>p &lt; 0.01</math>)。これらの血小板凝集は GPIIb/IIIa 受容体拮抗薬により阻害されたが、vWF に関与する GPIb 抗体では阻害されなかった。喫煙者では血小板自然凝集は亢進しており、活性化された血小板上のグリコプロテイン GPIIb/IIIa 受容体による血小板凝集の関与が示唆された。血小板自然凝集への vWF の直接的な関与はないかもしれない。</p>

論文のタイプ	原著
Author	Matetzky, S, Tani, S, Kangavari, S, et al.
Title	Smoking increases tissue factor expression in atherosclerotic plaques: implications for plaque thrombogenicity.
和訳タイトル	喫煙が動脈硬化性プラークにおける組織因子の発現を高める：プラーク血栓形成の関連
Journal	Circulation
巻	102
号	6
ページ	602-604
年	2000
キーワード	smoking, thromboplastin, aspirin, atherosclerosis 喫煙、トロンボプラスチン、アスピリン、動脈硬化
読んだ人	宮武佳子
読んだ期日	2009. 2. 28
重要度 (アカデミック)	3
重要度 (啓蒙的)	3
抄録	<p>喫煙は動脈硬化性血栓性イベントを増加させる。血栓形成と喫煙の関与を明らかにするため、動脈硬化性プラークにおける組織因子(TF)の発現に喫煙とアスピリンが影響を及ぼすか調査した。apoE 欠損マウスを喫煙に暴露し、アスピリンあり(n=9)、なし(n=14)、非喫煙(n=11)で比較。TFの免疫学的発現が喫煙群で高く(14±4% 対 6.4±3%; P=0.0005)、アスピリンにより6.5±4.5%; p=0.002とその発現が抑制された。VCAM-1の発現も喫煙者で高く(15±4% 対 5±2%; P=0.002)、アスピリンで5±3%と抑制され、マクロファージにおけるVCAM-1発現は喫煙者に多かった(16±5% 対 6±2%; P=0.002)。ヒトの頸動脈剥離によるプラークでは、喫煙者(n=23)は非喫煙者(n=23)に比し8±5% 対 2±2%; P=0.0002と高く、活性も高かった(P=0.03)。アスピリンにより喫煙者のTF発現が抑制された(9±8% versus 3±4%; P=0.0017)。プラークのTF発現と血栓形成は喫煙者の動脈血栓イベントの機序の可能性があり、アスピリンでTF発現は抑制されるかもしれない</p>